

X_{ij}^0/B_{ij}^0 によって計算されており、物量に換算すると同時に、統一価格評価でないという問題点が解決されている。

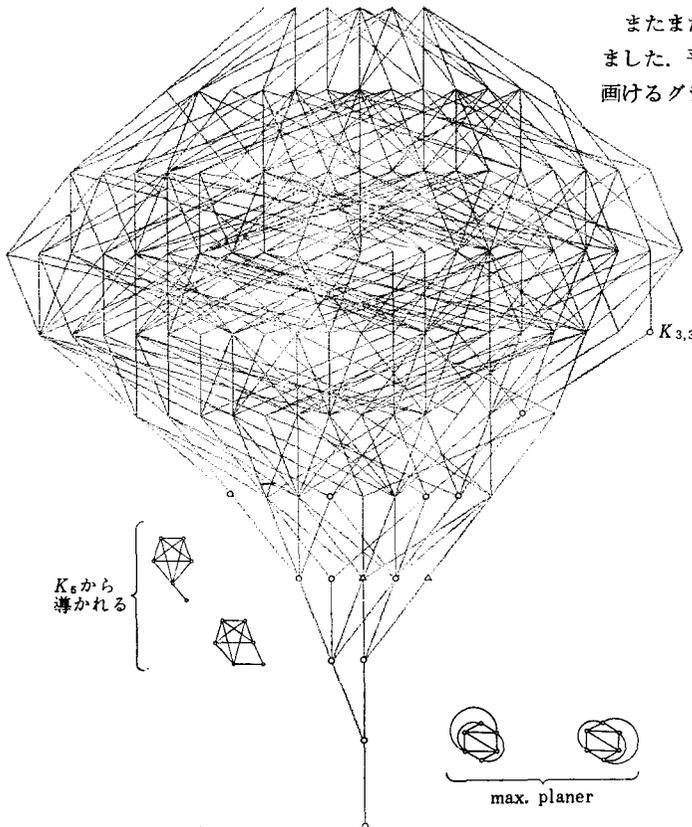
さて、表3その1にもどり、行14「輸入原油」を見よう。昭和45年の輸入原油の中間需要は195百万klであった。上述した意味で経済規模と産業構造を昭和45年のままに固定して計算すると、中間需要量は石油ショック以前は増加傾向を辿り昭和48年に198百万klとなる。第1次石油ショック後は代替変化乗数が1を下回るため中間需要量は減少に転じ昭和50年には190百万klになっている。昭和51以降昭和75年に至るまで、推計された投入係数にもとづいて中間需要量を計算してあるが、表3その2に見られるように、昭和75年における「輸入原油」の中間需要量は161百万klになっている。

表4は、表3において、昭和45年の列の値で他

の列を割ることにより指数化して作成したものである。表3でとりあげた行14「輸入原油」について昭和75年の指数を見ると0.823であり、昭和45年に比して輸入原油の中間需要量は17.7%節約されている。表3および表4に関しては特定の行部門についてのみ説明を試みたが、他の行部門の数値の意味もまったく同じ性質のものであることは論を俟たない。

したがって本稿で述べた方法によれば、各種のエネルギーや他の主要な品目についてどの程度の節約を意味する投入係数になっているかを計算しつつ投入係数を予測することができる。また代替変化乗数の外生的指定値を試行錯誤的に与えてはRECRASモデルによる計算を繰り返すことにより、省エネルギー率等が期待する値と一致するような投入係数を予測計算で求めることができる。

■ グラフを楽しむ ●



またまた同じ図を用いて今回は平面グラフを調べてみました。平面グラフとは、平面上で辺を交わらせずに行けるグラフです。よく知られている平面グラフの必要十分条件 (Kuratowski K_5 あるいは $K_{3,3}$ に準同型なグラフを含まないグラフは平面グラフ) を図で表現してみます。図中、 $K_{8,8}$ はA、 $K_{5,5}$ に準同型なグラフはBに、 $K_{5,5}$ を含む最小辺のグラフはCに対応します。極大非平面グラフを捜してみよう。